

HAND BOOK NANKAI



NANKAI ELECTRIC RAILWAY CO.,LTD.



CONTENTS

南海グループのあらまし

南海グループの概要	4
中期経営計画「深展133計画」	5
南海グループのあゆみ	10
連結財務諸表	12
連結経営成績の推移	14
CSR(安全性向上への取り組み)	15
CSR(環境への取り組み)	16
CSR(コンプライアンス ほか)	17
グループ会社一覧	19
運輸セグメント	20
不動産セグメント	25
流通セグメント	30
レジャー・サービスセグメント	35
建設セグメント その他セグメント	39

南海電鉄のあらまし

個別財務諸表	43
役員と組織	44
株式・株主	46
従業員構成	48
人材の育成	49
福利厚生	50

鉄道事業

路線図	52
鉄道事業の現況と実績	54
駅施設	58
安全・バリアフリー施設など	68
駅別乗降人員	74
列車種別運転本数	76
運賃のあらまし	78
普通旅客運賃表	82
泉北高速鉄道	88
定期旅客運賃表	90
営業キロ程表	92
スルッとKANSAI・PiTaPa・ICOCA	96
保線	98
電気	100
信号通信	102
連続立体交差事業	104
鉄道車両	106

年譜ほか

年譜	114
主な沿線人口	127
民鉄16社比較	128

南海グループの あらし

南海グループの概要

南海グループは、南海電鉄を中心に、連結子会社58社、持分法適用関連会社2社など、合計79社で構成される企業グループです。（平成29年3月末現在）

各グループ会社は、運輸、不動産、流通、レジャー・サービス、建設、その他の6セグメントに分かれ、企業としての社会的責任を果たすとともに、事業の堅実な成長を成し遂げることを目指して、それぞれの分野で事業展開を行っています。

■ 南海電鉄の概要

▶ 社 名	南海電気鉄道株式会社 Nankai Electric Railway Co.,Ltd.
▶ 創 業	明治18年〈1885年〉12月27日
▶ 設 立	大正14年〈1925年〉3月26日 （設立登記：大正14年〈1925年〉3月28日）
▶ 本 店	大阪市中央区難波五丁目1番60号
▶ 本社事務所	〒556-8503（個別番号） 大阪市浪速区敷津東二丁目1番41号 ☎. 06・6644・7121（総務部） Fax. 06・6644・7123 URL http://www.nankai.co.jp/
▶ 東 京 支 社	〒104-0061 東京都中央区銀座五丁目15番1号 南海東京ビル8階 ☎. 03・3541・5477 Fax. 03・3541・5478
▶ 和歌山支社	〒640-8203 和歌山市東蔵前丁3番地17 南海和歌山市駅ビル7階 ☎. 073・433・1285 Fax. 073・431・3573
▶ 資 本 金	729億8,365万円

■ 企業集団の状況（連結従業員数 9,104人）（平成29年3月末現在）

運輸業	36社	●鉄道事業 ●軌道事業 ●バス事業 ●海運業 ●貨物運送業 ●車両整備業
不動産業	5社	●不動産賃貸業 ●不動産販売業 ●不動産仲介業
流通業	11社	●ショッピングセンターの経営 ●駅ビジネス事業 ●その他
レジャー・サービス業	23社	●遊園事業 ●旅行業 ●ホテル・旅館業 ●ボートレース施設賃貸業 ●ビル管理メンテナンス業 ●葬祭事業 ●その他
建設業	5社	●建設業
その他の事業	4社	●経理・情報処理業務代行業 ●その他

中期経営計画「深展133計画」

南海グループでは、平成27年の創業130周年を契機として今後3年間で「更に深耕し展げていく3年間」と位置付け、中期経営計画「深展133計画」を推進しています。

■ 深展133計画の考え方

創業130周年を契機として、
これまで築いてきた経営基盤を
更に深耕し展げていく。

■ 深展133計画の基本方針

1. 泉北関連事業の強化

〈基本的な考え方〉

- (1) 泉北エリア全体の活性化に本格的に取り組む。
- (2) グループ全体でのシナジーを早期に発現、かつ事業機会の拡大と収益の向上を目指す。
- (3) 流通センター事業を核として、グループ内の物流事業を拡大する。

〈具体的な取り組み〉

- (1) 輸送サービスの利便性・快適性向上
- (2) 中核エリア（泉ヶ丘駅前地区）の魅力・集客力向上
- (3) 泉北エリアへの居住、来訪促進
- (4) 物流事業の収益基盤拡充
- (5) 効率化と競争力の強化



泉ヶ丘ひろば専門店街のリニューアルを実施



泉北高速鉄道

2. 関空・インバウンド事業の拡大

〈基本的な考え方〉

- (1) 2020年に向け増加するインバウンド需要を確実に取り込む。
- (2) 基盤整備を早期に完了(多言語対応などソフト・ハードの整備)、今後は空港アクセスを含む収益機会の拡大を加速させる。
- (3) 外部との連携により関西全体の魅力の向上と情報発信を図り、大阪、さらには当社グループの事業エリアへの来訪を促進する。
- (4) 関西国際空港を取り巻く環境変化に対応し、関空関連の収益基盤を維持・拡大する。

〈具体的な取組み〉

- (1) 情報発信と営業基盤の強化、快適な利用環境の整備
- (2) ミナミ・なんばエリアへの来訪促進、収益機会の拡大
- (3) 関空アクセスの拡充
- (4) 関西国際空港でのサービス拡大



床面での案内サインを強化(難波駅)



外国人専用窓口を新設(関西空港駅)



空港急行を長編成化(6両→8両)



大型手荷物などに対応する多目的スペース

3. なんばエリアの求心力向上

〈基本的な考え方〉

- (1) (仮称)新南海会館ビルが、お客さまのニーズに応えなんばエリアのポテンシャル向上に資するよう、基幹プロジェクトとして推進する。
- (2) 不動産、流通事業などのバリューアップ及びラインナップ充実を図り、なんばエリアの鮮度を維持・向上させ他エリアと差別化する。

〈具体的な取組み〉

- (1) 南海会館ビル建替プロジェクトの推進
- (2) 施設及びコンテンツのバリューアップとラインナップの充実
- (3) エリア連携によるまちづくり活動の推進



リニューアルで増床したなんばCITY南館



パークスガーデンの「はらっぱ広場」をリニューアル

〈南海会館ビル建替プロジェクトの推進〉

- 事業の意義
 1. 南海ターミナルビル再生の集大成
 2. なんばエリアにおけるポテンシャルの向上と新たな価値創造
- ビジネスセンター機能の整備
 1. なんばターミナルに直結する利便性を活かし、企業の多様なニーズに対応するビジネス拠点として整備
 2. 企業のBCPニーズに応える最高水準の機能を提供
 3. フレキシビリティの高いオフィススペック
- 多様なサービス施設の整備
 1. インバウンド対応機能の充実
 2. 利便性及び集客力の向上

がん治療における先端医療に積極的に取り組む「南東北グループ」のクリニックを開設するメディカルフロアや、ホール・カンファレンス、金融サービス、商業ほか



(仮称)新南海会館ビルの完成予想



メディカルフロア共同記者会見(平成29年3月23日)

重点項目1.沿線エリアの魅力創造

創業130周年を機に、南海エリア・南海グループのブランドイメージ向上を図るプロモーション（※次項参照）を展開します。また、多くのお客さまに沿線エリアを巡っていただく仕掛け作りや生活関連サービスの拡充、主要駅の機能強化などにより当社沿線エリアの魅力を創ります。



沿線の魅力を発信(めでたいでんしゃ)



農業関連事業に参入

重点項目2.グループ経営基盤の強化

インバウンドや物流事業など、今後の成長分野に資金及び人材を投入し次代の柱として育成しながら、一方で現在の経営状況と将来の環境変化を踏まえ、不採算事業の抜本対策を講じます。特にキャッシュフローを意識し、投資・収支計画の徹底を図り、有利子負債残高／EBITDA倍率を改善していきます。また、グループの成長をけん引する中核人材と新たな価値創造を担う多様な人材を、積極的に育成・活用します。

■ 数值目標

計画の最終年度にあたる平成29年度の数値目標は以下のとおりです。(平成28年10月31日に上方修正)

1. 連結營業利益 330億円
2. 連結有利子負債残高／EBITDA倍率 7倍台

*FBITDA=營業利益+減価償却費

■ グループ経営方針

深展133計画の策定にあたり、当社グループの普遍的なテーマを「グループ経営方針」として位置付けます。

- (1)安全・安心の徹底
鉄道をはじめとしたすべての事業において安全・安心を徹底します
- (2)環境重視
「地球環境保全」を使命として認識、事業において環境に配慮します
- (3)コンプライアンスの徹底
法令遵守、自らの社会的責任を認識、公正で健全な企業活動を行います
- (4)顧客志向の追求
地域に密着した企業として、お客さま目線の行動を徹底します

■ ブランドイメージ向上プロモーション

本プロモーションを通じて、多くの人に当社エリア及び当社グループの魅力を“知って”もらい、“好き”になってもらい、“住んで良かった・住んでみたい”と思っていただけるような活気あふれる沿線づくりに取り組んでいます。

〈ブランドスローガン〉

愛が、多すぎる。

お客さまへの愛、安心・安全への愛、地域の暮らしへの愛、環境への愛など当社グループが持つたくさんの想いを表現しています。

〈主なプロモーション施策〉

- (1)「知ってもらう」
ブランドスローガンをお客さまに浸透させるための「テレビCM」の放映
- (2)「もっと知ってもらう(参加してもらう)」
南海グループや沿線に親しみをもってもらうための参加型イベントなどの実施
- (3)「好きになってもらう」
南海グループ沿線のヒト・コト・モノの良さを伝えるための「南海100駅自慢」(ポスター・Web)の掲出・掲載及びCATV「なんかい日和」の放映



テレビCM「100駅ぶらり旅」



出演者を募集するポスター

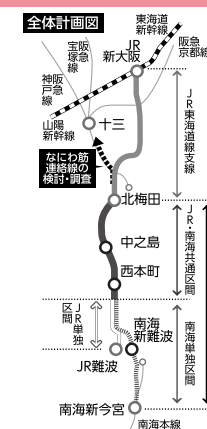


駅を切り口として沿線を紹介する
ポスター「南海100駅自慢」

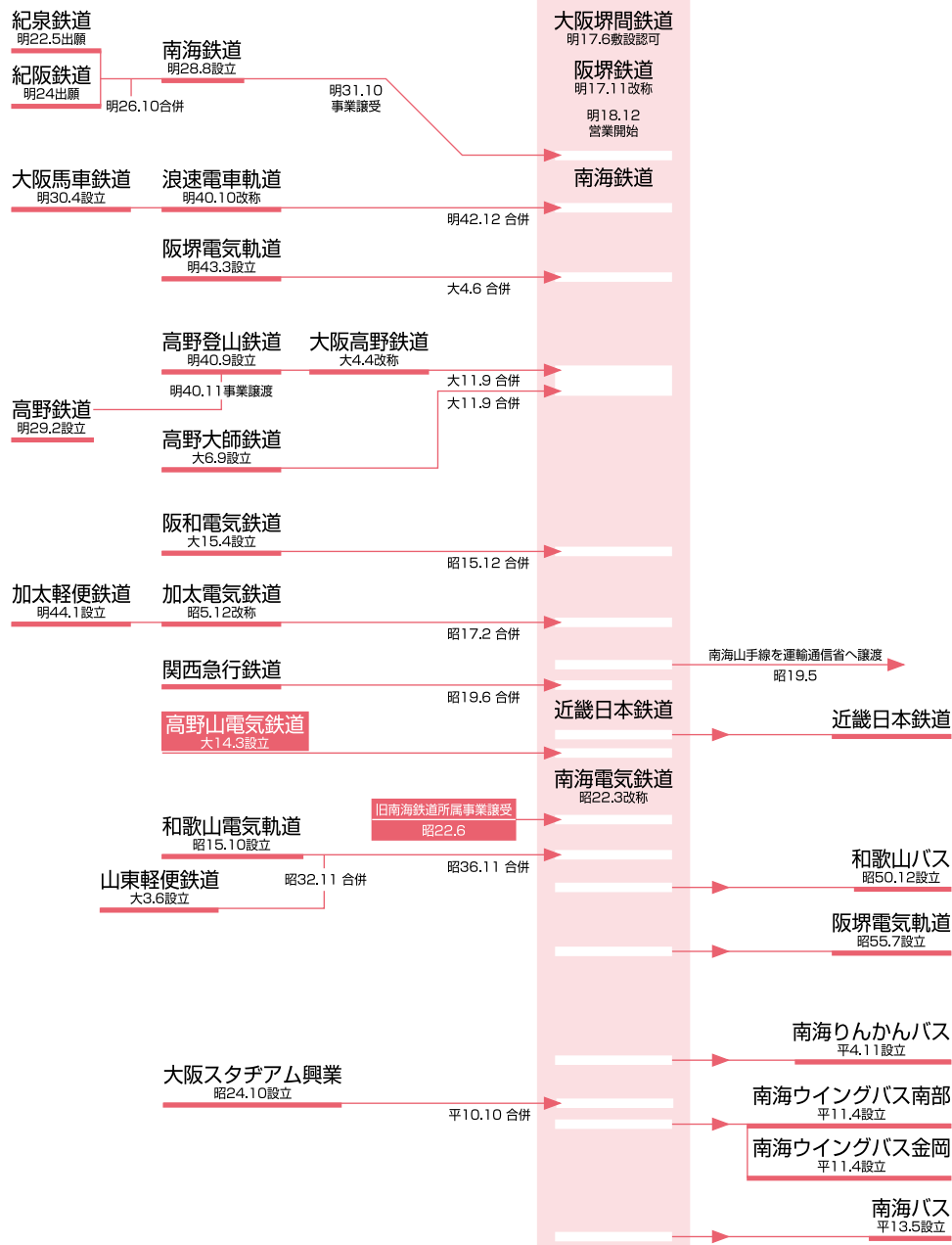
◆ なにわ筋線について

当社と大阪府、大阪市、西日本旅客鉄道、阪急電鉄の5者は、「なにわ筋線」の整備計画の基本事項について合意し、今後、国との協議を進めて事業化を目指すます。また、(仮称)北梅田駅北側で阪急十三方面に分岐する路線(なにわ筋連絡線)についても、国と連携しながら整備に向けた調査・検討を進めます。

整備区間	JR難波波駅～(仮称)西本町駅～ (仮称)北梅田駅 南海新今宮駅～(仮称)西本町駅～ (仮称)北梅田駅
中間駅	(仮称)中之島駅 (仮称)西本町駅 (仮称)南海新難波駅
整備主体	第3セクター
営業区間	当社：新今宮駅～(仮称)北梅田駅 JR西：JR難波波駅～(仮称)北梅田駅



南海グループのあゆみ



創業～南海鉄道の誕生

当社は、わが国最初の純民間資本による鉄道会社であり、阪堺鉄道を前身としています。

明治17年(1884)6月、当時大阪財界の重鎮であった藤田傳三郎、松本重太郎ら19人が発起人となって、大阪堺間鉄道の敷設認可を受けました。大阪堺間鉄道は、のちに阪堺鉄道と改称して鉄道建設を進め、翌18年12月27日、難波～大和川間(7.6km)を小型蒸気機関車で開通しました。21年5月には、路線を堺の吾妻橋まで延長し、当初の計画どおり難波～堺間を全線開通しました。

一方、28年に紀伊鉄道と紀阪鉄道が合併して誕

生した南海鉄道は、30年10月に堺～泉佐野間を開通し、31年10月には阪堺鉄道の事業を譲り受け、36年3月難波～和歌山市間を全通しました。

さらに大正11年(1922)には、現在の高野線である大阪高野鉄道と高野大師鉄道を合併し、14年7月汐見橋～高野下間を全通するとともに岸ノ里で南海本線と連絡しました。

そのほか、明治42年(1909)、浪速電車軌道を合併して上町線に、大正4年(1915)、阪堺電気軌道を合併して阪堺線・平野線とし、現在の当社路線は、この時期にほぼ完成しました。

高野山までの直通運転～関西急行鉄道との合併

大正14年(1925)3月26日、高野下～高野山間の鉄道敷設を目的に高野山電気鉄道が設立されました。同社は昭和3年(1928)6月に高野下～紀伊神谷間、4年2月紀伊神谷～極楽橋間、5年6月には鋼索線を開通、7年4月に南海鉄道との相互乗り入れを実施し、ついに難波～高野山間の直通運転を開始しました。

昭和5年(1930)6月、天王寺～和歌山(東和歌山)間に阪和電気鉄道が開通しましたが、監督当局

のすすめにより、南海鉄道が15年に同社を合併し、南海山手線としました。

やがて戦局の悪化により、政府は戦時輸送体制確立のため民鉄10社に対し強制買収を決め、山手線もその対象となり19年5月運輸通信省に譲渡。6月には南海鉄道は関西急行鉄道と合併、社名を近畿日本鉄道としました。こうして南海鉄道の南海線・高野線は近畿日本鉄道難波営業局、軌道線は同天王寺営業局の所屬となり、終戦を迎えました。

新発足～南海グループの発展

終戦後、形式的には高野山電気鉄道が母体となり、近畿日本鉄道から旧南海鉄道に属した鉄道と軌道のすべてを譲り受ける形で、昭和22年(1947)6月1日、社名を南海電気鉄道と改め新発足しました。

30年代に入り、四国航路の開設・みさき公園の開園・南海会館ビルの建設という3大プロジェクトを実現したほか、バス路線の飛躍的拡大、住宅開発事業の本格化、沿線を中心に南紀・四国地区を拠点

とするグループ事業の拡充などによって、南海グループは大きく発展を遂げました。近年では、機動的かつ効率的な事業運営を実現するため、バス事業などを当社からグループ会社へ譲渡・分社化。また、平成26年7月に泉北高速鉄道をグループ化するなど、お客さまの多種多様なニーズにグループ全体で即応し、全国的に信頼される「南海ブランド」の確立に努めています。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

(平成29年3月31日現在)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
(資産の部)	
流動資産	83,470
固定資産	807,327
資産合計	890,798
(負債の部)	
流動負債	190,491
固定負債	481,017
負債合計	671,509
(純資産の部)	
資本金	72,983
資本剰余金	28,089
利益剰余金	69,559
自己株式	△ 104
株主資本合計	170,527
その他有価証券評価差額金	8,266
土地再評価差額金	31,752
退職給付に係る調整累計額	△ 1,306
その他の包括利益累計額合計	38,712
非支配株主持分	10,048
純資産合計	219,288
負債純資産合計	890,798

■ 連結損益計算書の要旨

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
営業収益	221,690
営業費	189,849
営業利益	31,840
営業外収益	1,351
営業外費用	6,080
経常利益	27,111
特別利益	24,602
特別損失	27,029
税金等調整前当期純利益	24,684
法人税、住民税及び事業税	7,953
法人税等調整額	△ 423
当期純利益	17,154
非支配株主に帰属する当期純利益	702
親会社株主に帰属する当期純利益	16,452

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,753
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 30,861
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,906
現金及び現金同等物の増減額	△ 14
現金及び現金同等物の期首残高	18,294
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額	61
現金及び現金同等物の期末残高	18,342

■ 連結株主資本等変動計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	72,983	28,089	58,128	△ 76	159,125	5,602	0	31,830	△ 1,860	35,572	9,241	203,939
当期変動額												
剰余金の配当			△ 5,101		△ 5,101							△ 5,101
親会社株主に帰属する当期純利益			16,452		16,452							16,452
土地再評価差額金の取崩			77		77							77
連結子会社の合併による変動			2		2							2
自己株式の取得				△ 30	△ 30							△ 30
自己株式の処分		0		2	2							2
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△ 0			△ 0							△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						2,663	△ 0	△ 78	554	3,139	806	3,946
当期変動額合計	—	0	11,430	△ 28	11,402	2,663	△ 0	△ 78	554	3,139	806	15,348
当期末残高	72,983	28,089	69,559	△ 104	170,527	8,266	—	31,752	△ 1,306	38,712	10,048	219,288

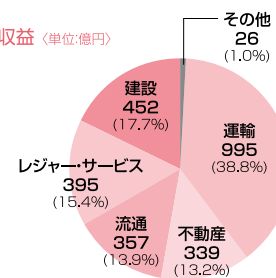
■ セグメント情報

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

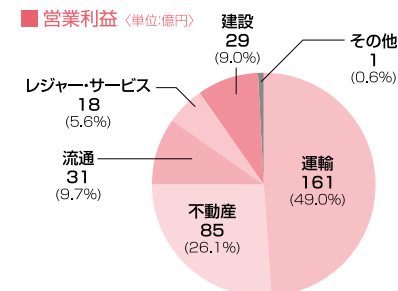
〈単位:百万円〉

	営業収益	営業利益
運輸業	99,551	16,140
不動産業	33,922	8,581
流通業	35,794	3,181
レジャー・サービス業	39,571	1,845
建設業	45,275	2,953
その他の事業	2,619	194
調整額	△ 35,045	△ 1,056
連結	221,690	31,840

■ 営業収益 〈単位:億円〉



■ 営業利益 〈単位:億円〉



CSR(環境への取組み)

環境への取組み

「南海電鉄グループ環境理念」の実現に向け、当社を中心にグループ各社が連携協力し、重要課題・重点施策などに取り組んでいます。

■ 深展133計画(3か年)目標

重要課題1 「環境保全に配慮した事業活動の推進」

重点 施策	①CO ₂ 排出量削減目標の達成 グループ連結45社全社におけるCO ₂ 排出量の3%削減と管理体制の確立 水使用量、廃棄物の量を45社で5%削減 ②J-クレジット(オフセット・クレジット)取組み推進 当社所有林「なんかいの森(護摩壇山)」におけるCO ₂ 吸収量に基づくクレジットの活用 ③グループ会社、サプライチェーンに対する環境経営の推進
28年度 実績	(1)グループ45社においてCO ₂ 排出量を前年度比1.0%削減 (2)VVVF型省エネ車両8300系12両を新造(普通鋼製車両から置き換え) (3)駅・車両へのLED照明の導入、空調設備・エスカレーターの更新 (4)G7伊勢志摩サミット開催に伴い排出されるCO ₂ の一部を、当社が取得した「J-クレジット」で200tオフセット(当社:50t、近鉄グループ:当社から「J-クレジット」150t分を買取り) (5)太陽光発電システムの運用(淡輪遊園跡地※、泉佐野駅、泉大津駅、羽衣駅)と雨水利用(泉大津駅) ※淡輪遊園跡地は平成28年10月に運用開始

重要課題2 「地域社会との協働、コミュニケーションの強化」

重点 施策	環境関連事業への参画
28年度 実績	(1)多奈川ビオトープ整備活動、なんかいの森づくり推進活動ほか、環境関連事業に参画 (2)「堺の森再生」「なんばエコプロジェクト」「ビオトープハイキング」などを地元自治体と共同で開催 (3)「CSR報告書2016」発刊(9月)、環境コミュニケーション大賞環境報告書部門 優良賞を受賞

重要課題3 「環境経営に係る情報発信機能の強化」

重点 施策	・社内ECOニスト(ボランティア活動などを積極的に行う社員)の増加 ・社内イントラネットにて「ECOニスト短信」の発行を強化
28年度 実績	・環境に関する情報や活動成果などを共有する「EMSマンスリーレポート」を毎月発行 ・社内ECOニストを128人認定

重要課題4 「環境経営の推進体制の強化」

重点 施策	・環境マネジメントシステム、ISO14001改訂への対応
28年度 実績	・ISO14001 新規格対応に向け、マニュアル等の改正 ・内部監査員21名の増員 ・グループ内の水の使用量・廃棄物の排出量データの収集

CSR(コンプライアンス ほか)

コンプライアンスの取組み

■ 企業倫理規範の制定

企業倫理の確立を図り、コンプライアンス経営を維持・推進するため、平成13年9月に「企業倫理規範」を制定しました。(企業倫理規範の内容は表紙裏に掲載)

■ コンプライアンス取組み体制

各部(室)及びグループ会社にコンプライアンス担当者を設置し、定期的に情報交換、意見交換を実施しています。

■ 企業倫理ホットラインの設置

当社グループの全役職員を対象に、企業倫理・コンプライアンスに関する照会、疑問、相談、報告などを受け付ける窓口として平成14年12月に創設しました。

■ コンプライアンスマニュアルの制定

企業倫理を確固たるものとするため、役員・社員一人ひとりの業務や行動指針を示す実践的なマニュアルとして平成16年12月に制定、18年4月にはグループ各社でも個別に制定しました。

■ コンプライアンス研修

階層別の研修や、社内及びグループ会社間の集合研修、継続的な教育によって、コンプライアンス意識の涵養を図っています。

リスクマネジメントの取組み

様々なリスクに対し適切に対応するため、リスクを組織横断的に管理する体制を構築し、事業にかかわるリスク情報を把握するとともに、優先的に対処すべきリスク項目を選定しています。そのうえで、各部(室)及びグループ会社において、リスクの回避または軽減のための「リスク対策計画」を策定、実施しています。さらに、進捗状況の確認や評価を行い、次年度計画へ反映し、リスクマネジメントのPDCAサイクルを推進しています。

BCP(事業継続計画)

当社では、大規模地震をはじめとする緊急事態が発生しても、重要な事業を中断させず、または中断したとしても可能な限り短時間で復旧できるよう、事前に行うべき対策と行動要領等を定めた「BCP(事業継続計画)」を策定しています。グループ会社においても順次策定しており、今後も展開に努めます。

ダイバーシティへの取組み

経営環境の変化に柔軟に対応し、持続的に成長していくためには、組織内の多様性を尊重し、積極的に活用していくことが不可欠であると考え、様々な切り口からダイバーシティの推進に努めています。

- 1.女性のさらなる活躍推進に向け、ベースとなる女性社員の採用比率の向上や、活躍の場の拡充などを目標とする行動計画を策定し、様々な取組みを行っています。
- 2.定年退職後の再雇用制度を導入し、原則として希望者全員を引き続き雇用しています。
- 3.障がい者の雇用促進のため、特例子会社(株)南海ハートフルサービスを平成17年2月に設立。清掃や郵便仕分けなどの業務を担っています。

沿線活性化の取組み

■ 地域交流

千代田工場で毎年「南海電車まつり」を開催し、ラピート車内見学会や子ども車掌体験などの各種イベントを通じて当社への理解を深めていただいています。

また、沿線の小学生などを対象とした車庫見学会、阪堺電気軌道「路面電車まつり」、スルッとKANSAI「バスまつり」などで沿線のお客さまとの交流の機会を設けています。



南海電車まつり

■ 沿線振興

1. 南海コンサート

天下茶屋に本拠地を置く大阪フィルハーモニー交響楽団のコンサートを、当社協賛で定期的に行われ、63回の実績があります。沿線を中心として関西における音楽文化の向上などを目的としています。



南海沿線文化セミナー

2. 南海沿線文化セミナー

沿線にゆかりのある武将や偉人、名所や旧跡を紹介し、沿線の魅力を発見していただくことを目的に、平成20年度から定期的に行われています。

3. スポーツ振興

沿線のスポーツ振興を目的に、V・プレミアリーグ所属の堺ブレイザーズと協働で、沿線の中学校男子バレーボール部員への直接指導やバレーボール大会などを平成21年度から実施しています。



バレーボール大会

4. こうや花鉄道プロジェクト

高野山への道中、鉄道の魅力や旅行の楽しみを、地域とともに創出する取組みです。

〈これまでの取組み内容〉

- 展望デッキ付列車「天空」運行
- 九度山駅「九度山真田花壇」
- 高野下駅「南海思い出ミュージアム」
- 高野下駅、下古沢駅「花屏風」
- 中古沢橋梁展望デッキ設置
- 駅や車窓沿いへの花植え・植樹など



こうや花鉄道